

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月11日

【四半期会計期間】 第73期第2四半期(自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)

【会社名】 株式会社トーモク

【英訳名】 TOMOKU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 斎藤 英 男

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号

【電話番号】 03(3213)6811(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 内 野 貢

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号

【電話番号】 03(3213)6811(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 内 野 貢

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人札幌証券取引所
(札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第72期 第2四半期 連結累計期間	第73期 第2四半期 連結累計期間	第72期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	60,796	59,682	136,350
経常利益	(百万円)	1,055	908	6,804
四半期(当期)純利益	(百万円)	373	542	3,193
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	464	41	2,972
純資産額	(百万円)	37,201	40,208	40,355
総資産額	(百万円)	109,853	107,907	109,676
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	3.99	5.80	34.15
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	32.9	36.1	35.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,099	1,095	8,258
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,861	2,874	4,880
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	262	4,884	2,108
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	9,869	6,855	15,376

回次		第72期 第2四半期 連結会計期間	第73期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	9.43	6.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
おりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載して
おりません。
4. 第72期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」
(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容につ
いて、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）は、本年3月に発生した東日本大震災とそれに伴う東電福島原発の事故によるサプライチェーンの寸断や電力不足、消費マインドの悪化等から国内経済は一旦大きく落ち込みましたが、その後サプライチェーンの復旧や復興需要を背景に、生産や個人消費が徐々に持ち直してきました。しかしEU諸国の財政危機と金融不安、米国の雇用低迷や景気減速、中国や新興諸国の経済成長の鈍化、そしてそれらを背景とする急激な円高の進行と株安等、海外リスクの急速な増大により、国内経済も再び先行きに不透明感が増してきています。

その中で当第2四半期連結累計期間の売上高は59,682百万円（前年同期比1.8%減）、経常利益は908百万円（前年同期比13.9%減）、四半期純利益は542百万円（前年同期比45.3%増）となりました。

セグメントの業績は次の通りです。

段ボール

段ボールにおいては、夏の電力不足を見越したお客様の前倒し生産や西日本への生産シフト等により、4～6月の需要は堅調に推移しましたが、7～9月は昨年夏の猛暑により需要が大きく伸びた水準には届きませんでした。

その中で、東日本大震災で被災した仙台工場が4月15日には稼働を再開することができたことに加え、3月に館林工場稼働を開始した毎分450mの国内最速最新鋭のコルゲータや4月から5月にかけて大阪工場や新潟工場、㈱トーシンパッケージに導入した最新鋭の加工機が威力を発揮し、4～6月を中心にお客様の需要に機動的に対応することができました。しかし全体としてはやはり東日本大震災後の経済の落ち込みが影響し、売上高は37,972百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は新規導入設備の償却負担増や仙台工場被災の影響もあり2,863百万円（前年同期比14.8%減）となりました。

住宅

住宅においては、住宅金融支援機構の住宅ローンの金利優遇が10月以降縮小されることに伴う駆け込み需要といった動きよりも、東日本大震災による消費マインドの悪化がやはり大きく影響し、売上高は11,787百万円（前年同期比9.9%減）、また売上が下半期に集中し上半期はコストが先行するという住宅の特性もあり、営業損失は2,505百万円（前年同期は営業損失2,497百万円）となりました。

運輸倉庫

運輸倉庫においては、お客様の前倒し生産や西日本への生産シフト等により取扱量が増加し、また燃料価格が上昇しましたが生産性の向上や固定費の圧縮に努めた結果、売上高は9,922百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益は634百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

(2)財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比1,768百万円減少し107,907百万円となりました。流動資産では、受取手形及び売掛金が2,510百万円の増加、たな卸資産が3,533百万円増加しましたが、現金及び預金の8,521百万円減少などで、前連結会計年度末比1,303百万円減少の50,208百万円となりました。固定資産では、有形固定資産の634百万円減少などで、前連結会計年度末比465百万円減少の57,699百万円となりました。

負債の部は、前連結会計年度末比1,621百万円減少し67,699百万円となりました。主な内訳は1年内返済予定の長期借入金1,671百万円増加、流動負債のその他が3,369百万円増加しましたが、長期借入金の6,217百万円減少によるものです。

純資産の部は前連結会計年度末比147百万円減少し40,208百万円となりました。これは主に、利益剰余金が395百万円増加しましたが、為替換算調整勘定の減少152百万円、繰延ヘッジ損益の減少147百万円、その他有価証券評価差額金の減少133百万円及び少数株主持分が107百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、8,521百万円減少し6,855百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動による資金の減少は1,095百万円（前年同期は2,099百万円の減少）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益850百万円、減価償却費2,462百万円、未成工事受入金の増加3,494百万円がありましたが、たな卸資産の増加3,591百万円、売上債権の増加2,250百万円、仕入債務の減少612百万円及び法人税等の支払額1,067百万円などにより減少しました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の資金の減少は2,874百万円（前年同期は1,861百万円の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得により2,948百万円支出されたことにより減少しました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の資金の減少は4,884百万円（前年同期は262百万円の減少）となりました。これは主に、借入金の減少4,536百万円があったことにより減少しました。

(4)研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の研究開発活動の金額は、128百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	290,098,000
計	290,098,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	96,707,842	96,707,842	東京証券取引所 (市場第一部) 札幌証券取引所	単元株式数は1,000株であります。
計	96,707,842	96,707,842		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		96,707,842		13,669		11,138

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ホッカンホールディングス株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目2-2	8,522	8.81
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3-1	8,435	8.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	5,049	5.22
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4-2	4,618	4.78
株式会社みずほコーポレート銀行(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目3-3 (東京都中央区晴海1丁目8-12晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	3,748	3.88
日本製紙株式会社	東京都北区王子1丁目4-1	3,500	3.62
特種東海製紙株式会社	静岡県島田市向島町4379	2,700	2.79
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	2,424	2.51
トーモク共栄会	神奈川県横浜市緑区青砥町348-3	2,328	2.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメンツ株式会社信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,003	2.07
計		43,329	44.81

(注) 1 上記所有株式のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口 5,049千株

2 トーモク共栄会が所有している株式には、会社法施行規則第67条の規定により議決権の行使が制限されている株式数200千株が含まれております。

3 上記のほか当社所有の自己株式3,201千株(3.31%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,201,000		
	(相互保有株式) 普通株式 235,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 92,434,000	92,434	
単元未満株式	普通株式 837,842		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	96,707,842		
総株主の議決権		92,434	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式及び「単元未満株式」欄の普通株式の中には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ9,000株(議決権9個)及び500株含まれております。なお、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数9個が含まれております。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式及び相互保有株式が次のとおり含まれております。

自己保有株式	274株
相互保有株式	
大正紙器(株)	723株
森川総合紙器(株)	50株

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社トーモク	東京都千代田区丸の内 2丁目2-2	3,201,000		3,201,000	3.31
(相互保有株式) 大正紙器株式会社	栃木県栃木市平柳町 1丁目18-13		127,000	127,000	0.13
森川総合紙器株式会社	北海道旭川市永山1条 12丁目1-12	35,000	73,000	108,000	0.11
計		3,236,000	200,000	3,436,000	3.55

(注) 1 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が2,000株(議決権2個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の中に含まれております。

2 「所有株式数」のうち、「他人名義」で所有している株式数は、当社の取引先で構成される持株会(トーモク共栄会 神奈川県横浜市緑区青砥町348-3)に加入しており、同持株会名義で当社株式200,000株を所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,376	6,855
受取手形及び売掛金	21,802	24,313
たな卸資産	1 9,874	1 13,407
その他	4,626	5,712
貸倒引当金	168	80
流動資産合計	51,511	50,208
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,976	15,503
機械装置及び運搬具(純額)	11,865	11,807
土地	17,826	17,757
その他(純額)	1,308	1,273
有形固定資産合計	46,976	46,341
無形固定資産	524	529
投資その他の資産		
投資有価証券	7,218	7,164
その他	3,778	3,995
貸倒引当金	333	332
投資その他の資産合計	10,663	10,827
固定資産合計	58,164	57,699
資産合計	109,676	107,907

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,146	11,749
短期借入金	2,352	2,297
1年内返済予定の長期借入金	8,810	10,482
未払法人税等	1,169	1,249
賞与引当金	1,634	1,673
その他の引当金	564	360
その他	8,533	11,902
流動負債合計	35,211	39,716
固定負債		
長期借入金	26,365	20,148
退職給付引当金	2,456	2,559
その他の引当金	622	632
その他	4,665	4,642
固定負債合計	34,109	27,983
負債合計	69,320	67,699
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,669	13,669
資本剰余金	11,138	11,138
利益剰余金	14,701	15,097
自己株式	663	664
株主資本合計	38,846	39,241
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	297	163
繰延ヘッジ損益	242	94
為替換算調整勘定	347	499
その他の包括利益累計額合計	192	241
少数株主持分	1,316	1,208
純資産合計	40,355	40,208
負債純資産合計	109,676	107,907

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	60,796	59,682
売上原価	49,240	48,761
売上総利益	11,555	10,920
販売費及び一般管理費	10,479	10,291
営業利益	1,076	628
営業外収益		
受取利息及び配当金	137	127
持分法による投資利益	123	220
雑収入	175	343
営業外収益合計	436	690
営業外費用		
支払利息	338	281
雑損失	118	129
営業外費用合計	457	410
経常利益	1,055	908
特別利益		
負ののれん発生益	-	50
投資有価証券売却益	7	20
貸倒引当金戻入額	5	-
完成工事補償引当金戻入額	4	-
特別利益合計	18	71
特別損失		
減損損失	20	53
固定資産処分損	234	35
災害による損失	-	34
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	170	-
その他	8	4
特別損失合計	433	128
税金等調整前四半期純利益	640	850
法人税、住民税及び事業税	1,300	1,200
法人税等調整額	949	845
法人税等合計	350	354
少数株主損益調整前四半期純利益	290	496
少数株主損失()	83	46
四半期純利益	373	542

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	290	496
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	485	137
繰延ヘッジ損益	106	147
為替換算調整勘定	158	170
持分法適用会社に対する持分相当額	3	1
その他の包括利益合計	754	454
四半期包括利益	464	41
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	364	108
少数株主に係る四半期包括利益	99	66

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	640	850
減価償却費	2,242	2,462
減損損失	20	53
引当金の増減額(は減少)	560	254
受取利息及び受取配当金	137	127
支払利息	338	281
売上債権の増減額(は増加)	2,543	2,250
たな卸資産の増減額(は増加)	2,161	3,591
仕入債務の増減額(は減少)	1,118	612
未成工事受入金の増減額(は減少)	2,668	3,494
その他	207	153
小計	402	152
利息及び配当金の受取額	143	132
利息の支払額	337	313
法人税等の支払額	1,503	1,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,099	1,095
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,939	2,948
長期貸付けによる支出	39	63
長期貸付金の回収による収入	291	138
その他	174	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,861	2,874
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,455	55
長期借入れによる収入	1,417	2,498
長期借入金の返済による支出	2,793	6,979
配当金の支払額	280	279
少数株主への配当金の支払額	28	25
その他	32	43
財務活動によるキャッシュ・フロー	262	4,884
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	53
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,253	8,908
現金及び現金同等物の期首残高	14,122	15,376
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	386
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,869	6,855

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 当第2四半期連結会計期間末より、当社の非連結子会社であったヤマゼントラフィック㈱、スウェーデンハウスサービス㈱は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
商品及び製品	5,088百万円	5,632百万円
仕掛品	943	3,857
原材料及び貯蔵品	3,842	3,917

2 偶発債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
スウェーデンハウス住宅購入者の金融機関のつなぎ融資等7,483百万円に対し、債務保証を行っております。		スウェーデンハウス住宅購入者の金融機関のつなぎ融資等5,207百万円に対し、債務保証を行っております。
従業員の住宅建設資金の借入金11百万円について、債務保証を行っております。		従業員の住宅建設資金の借入金7百万円について、債務保証を行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
給料及び手当	2,687百万円	2,659百万円
賞与引当金繰入額	590	556
役員退職慰労引当金繰入額	27	28

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
現金及び預金勘定	9,869百万円	6,855百万円
現金及び現金同等物	9,869百万円	6,855百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	280	3.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月8日 取締役会	普通株式	280	3.00	平成22年9月30日	平成22年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	280	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月8日 取締役会	普通株式	280	3.00	平成23年9月30日	平成23年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	段ボール	住宅	運輸倉庫	計		
売上高						
外部顧客への売上高	38,407	13,086	9,302	60,796		60,796
セグメント間の内部売上高 又は振替高	187		1,650	1,838	1,838	
計	38,595	13,086	10,952	62,634	1,838	60,796
セグメント利益又は損失()	3,359	2,497	573	1,435	358	1,076

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額 358百万円には、セグメント間取引消去19百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 377百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	段ボール	住宅	運輸倉庫	計		
売上高						
外部顧客への売上高	37,972	11,787	9,922	59,682		59,682
セグメント間の内部売上高 又は振替高	150		1,670	1,820	1,820	
計	38,122	11,787	11,592	61,502	1,820	59,682
セグメント利益又は損失()	2,863	2,505	634	992	363	628

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額 363百万円には、セグメント間取引消去23百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 387百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円99銭	5円80銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	373	542
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	373	542
普通株式の期中平均株式数(千株)	93,521	93,506

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成23年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・280百万円
- (ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・3円00銭
- (ハ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日・・・平成23年12月6日

(注) 平成23年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月7日

株式会社トーモク
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川井克之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	本多茂幸
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	表晃靖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーモクの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トーモク及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。